

2016年は、2011年の東日本大震災による福島第一原発事故から5年となり、チェルノブイリ原発事故から30年となります。私たちは、どのような未来を希望し、何を創造していきたいのでしょうか？また、私たちは、震災や原発事故によって、何を学び、何を選択していきたいのでしょうか。芸術と平和をテーマに活動する藝術平和山塾（山塾）とART Peaceでは、「本当の豊かさとは何か」を考えていく場として、2016年3月11日を中心に京都造形芸術大学・瓜生館で「開く未来ー5年後・30年後の未来へー」をテーマに展示を企画いたしました。小さな語らいから、私たちが歩む5年後・30年後の未来について語り合っていきたいと思います。

◆ 学生展示



八島千尋：東北芸術工科大学 日本画コース2年

1986年、チェルノブイリ原発で事故が発生し、放射性物質の70%がベラルーシに降り落ちた。苦難の地で、1型糖尿病と向き合う子どもたちの未来への不安と葛藤、そして希望は、言葉にならない光と影になって私たちに衝撃を刺さる。彼らが見せた運命、そして生命の輝きに、私たちが学ばなければならないものは何か。

木暮春奈：東北芸術工科大学 映像学科1年

私は被災地の取材で、こんなに身近な所に人がいない、入れない土地があるということを知りました。現地の人が涙ながらに話す震災はとても胸を打ちました。5年たっても風化することのない現状をみなさんにも知ってもらいたいです。福島の実状をみていることは人それぞれだと思いますが、何か感じることはあると思います。

富永和輝：東北芸術工科大学 日本画コース1年

私たちは歩きはじめる。笑顔あふれる未来に向かって。

赤澤朋恵：東北芸術工科大学 洋画コース1年

真つすぐな真の心が一つとなって未来へ進んでいきますように。



小野塚佳代：京都造形芸術大学大学院 博士課程風刺漫画

展示する作品は、3.11をきっかけに制作を始めた作品「ヤドカリ」シリーズです。大阪インターナショナルスクールの小学生に向けて行ったワークショップで、「安全な家」をテーマにヤドカリの住まいを描いてもらいました。異国に住居経験のある子どもたちの「安全」に対するさまざまなイメージが現れています。

浦田沙緒音：京都造形芸術大学 総合造形コース4年

私は、あの日から変わらず呼吸を続けている、続けていたら5年の時が過ぎていた。過ぎ去る月日の数よりも大切なことがあるはずなのに、過去の話にしようとしている気がしてならない。だからこそ私は、社会に対して自分の答えを出していきたいと思う。

跳造：京都造形芸術大学 学生グループ

私たちは今年、東北芸術工科大学との「芸術平和学」学生交流をしていくメンバーです。「芸術平和学」について学びたい、五感を通して感じたいと思い、偶然にもこの5人が集結しました。そんな私たちの「芸術平和学」への第一歩として作品を展示します。

MORE GH：東北芸術工科大学 学生グループ

MORE GHとは、昨年の「芸術平和学」京都学生交流で集った5人です。私たちは被災地開上を訪れ、東日本大震災のその被害の大きさ、未だに傷跡を残す町並みを目の当たりにしてきました。『MORE GHーより芸術平和をー』と掲げた私たちは芸術の力で人の心の復興を促すことができることを信じ、これからも開上の復興の為に力を注いでいきたいと思っています。

展示のビデオ作品は、被災地開上に行き撮影したものです。初めて自分の目や体で被災地に触れ、様々な衝撃を受けました。現実にはきつと映像や写真では伝わらないことがたくさんあります。少しでも多くの人に被災地の現在を知ってもらえたら嬉しいです。

◆ パネル展示



尾池和夫：京都造形芸術大学・学長（地震学者）

「あの地震は何だったのか。

これから日本はどうなるのか。」

浅利美鈴：京都大学環境科学センター・助教

大規模災害において、災害廃棄物対策は大きな課題だ。東日本大震災では、いち早く現場で処理計画立案などの支援にあたった。それについて多くの知見や技術が蓄積されてきた。町が一瞬にして災害廃棄物と化した様子や、その中から想い出を拾い出す取り組み、現地での調査資料などを元に、3.11についてのパネル展示を行う。

【お問合せ】

京都造形芸術大学 公認サークル藝術平和山塾
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
E-mail: yamaju9@gmail.com

【交通案内】

市バス5系統「上終町京都造形芸術大学前」下車すぐ
叡山電鉄叡山線「茶山駅」より徒歩10分
駐車場・駐輪場はございませんので、公共交通機関をご利用下さい。

